

・順信寺の予定

○ 5月12日(水) 午後0時より 「定例法話会」

お話ししていただく布教使さんは、苫前町九重 恵嶺寺 真栗義丸師です。

○ 5月28日(金) 午後1時より 「親鸞聖人ご命日のお参り」

○ 6月5日(土) 午後1時より・6日(日) 午前10時より 「永代経法要」

布教使さんは、伊藤秀師(興部町 興隆寺)です。6日のお齋(昼食)は、お持ち帰りしていただこうと予定しております。

○ 6月12日(水) 午後0時より 「定例法話会」 お話ししていただく布教使さんは、平取町 浄覚寺の内藤則雄師です。

○ 6月28日(月) 午後1時より 「親鸞聖人ご命日のお参り」

「仏教を学ぶということには、問いを学ぶということと、ものを感じていく感覚が育てられるということがあるんですね。

気がつくか、気がつかんか、それが人生を分けるのでしょうか。」 (伊藤元)

～そうなんです、仏教を学ぶということは、自分を見る目を養うことであるのです。自分自身あり方に気がつくか、つかないか大きな分かれ目であると思います。

「思いどおりにならず、誰にも代わることのできない身を、思いどおりにならないままに引き受けて生きる。その姿がまた誰かの存在を支えることがあるのです。」(三木朋哉)

～「迷惑をかけずに死んでいきたい」という言葉をよく聞きますが、人間は「お互い様」の存在であります。

「ありがとう」と言って喜べるか、「迷惑かけている」と言って卑屈になるか、大きな違いです。人間とはどのような存在かを学び続けていかななくてはならないと思います。

・・・「健常者」という言葉だ。健常者が「障害」をとやかく議論する前に、なぜ自らをあらわす「健常者」には疑問を向けないのだろうか。ぼくは思うが、常に健やかな人などどこにいるのだろうか。高校生にこの話をしたときの感想を一つ紹介したい。

「健常者」という言葉の本当の意味を今まで考えたことがないことに気づかされました。(中略) 私は「健常者」と呼ばれる方の人間ではあるけれど、毎日、365日24時間、いつでも元気いっぱいってわけではありません。普段当たり前のように使われている言葉だけど、本当の意味について考えてみたことがなかったなあと改めて思い直しました。

健常を問うていけば、自らあらわす言葉も無色透明なままでいられない。問題を抱えているのは常にマイノリティの方だとみなされているが、問いは自分の側にこそつきつけられているのだ。

(「誰も無色透明ではいられない」 松永真純)

「障害者」「健常者」という言葉がありますが、この文にあるように「健常者」といわれる人が常に健やかな訳はありません。水素と酸素だけで出来た  $H_2O$  という水が自然界には、存在しないのではないかと思います。必ず何かが混ざっているのではないのでしょうか。まさに誰も無色透明ではいられない。皆問題を抱えて生きているのではないのでしょうか。

.....人間も生きものである以上、その最大の使命は生きることだ。.....

.....2月13日の朝日新聞夕刊が、あるシングルマザーと発達障害の息子とのエピソードを伝えている。学や学校でのストレスが「死ぬ」などの暴言や暴力となって母親に向けられ、家出や登校拒否を繰り返す。たまりかねて精神科を受診すると・・・(略)・・・臨床心理士から「ペアレントトレーニング」を受けて親自身が変わる必要を教えられる。

親が変わると子どもも少しずつ変わり始める。そして小学4年の時に1枚のプリントを学校から持って帰る。「目標を実現するための秘訣を考えましょう」という道德の課題に対して、彼は「ママにおうえんしてもらおう」と書いた。その一か月後、今度は「自分のいいところを書こう」という課題に「生きてる」と書いた。そう教えられないと読めそうにないクセのある字だが、そのわずか4つの文字が開く世界はとても広い。

(「生きてる」 小林敏昭)

～人間にとって尊いということとはどんなことなのでしょう。考えさせられるお話だと思います。

・忠峰コーナー 「今日を生き 明日を夢みる 八十路かな」 「自転車で 登校の子等 声かけて」